No.173
2014.
3.14

岐阜の博物誌

編集兼発行
〒501-3941 関市小屋名
（岐阜県百年公園内）
岐阜県博物館内
岐阜県博物館協会
TEL 0575-28-3111

第61回全国博物館大会／岐阜大会を終えて

岐阜県博物館協会　会長　若宮　多門

昨平成25年11月７日・８日に開催された第61回全国博物館大会（岐阜大会）が岐阜県博物館協会員の協力のもと、また県や岐阜市のご支援を得て無事盛況のうち終了できましたことを心より感謝いたします。

思い返せば平成24年３月、日本博物館協会からの急な要請でありました。１年半しかない、短い準備期間ではありましたが、会員一丸となって取り組んでいただけました。

大会テーマは「博物館の可能性―新たな博物館像をめざして―」。大会の61回目とは、人生に当てはめれば還暦を祝う年であり、人は還暦を経てまた新たな力や命を授かるとされます。まことに相応しいテーマでありました。更には、御縁と言えましょうか、この岐阜の地が博物館法の生みの親とされる棚橋源太郎先生の生まれ故郷であったことです。大会の基調講演では「棚橋源太郎の見た夢―博物館の未来を見据えて―」を演題に、矢島國雄・明治大学教授の御講演をいただきました。

大会２日目の三分科会のうち、分科会１では「学校教育と博物館」をテーマに、司会は美濃加茂市民ミュージアムの可児光生さん、講師に岐阜市歴史博物館の春日井恵子さん、サイエンスワールドの東啓一さん、分科会２では古今伝授の里フィールドミュージアムの金子徳彦さんを司会に「観光と博物館」をテーマとし、講師に美濃歌舞伎博物館の小栗幸江さん、飛騨高山まちの博物館の浦谷公平さんと、実に多くの会員の方々に活躍していただきました。

プログラム最後の施設見学においても、各館の担当の方々の懇切丁寧な対応、御案内がなされました。

また岐阜の地酒の数々を賞味していただきながらの情報交換会は大変盛り上がり、会員交流の輪はますます広がったようです。

以上、岐阜県らしさを大いにアピールできた大会となりました。思うに、この大会が成功裏に納められたのも、この岐阜県の有する自然・文化の多様性と、それを導き出す各博物館の日頃の研鑽があってのことであり、今さらながら地域の個性が重要であることを再認識したしだいです。61回目の還暦の祝いに新たに見直す、新たに気付くという意味においても素晴らしい大会でありました。

私たち岐阜県博物館協会は平成28年に設立50周年を迎えます。半世紀に及ぶ区切りの年を、今回の全国大会の経験を生かし意味深き年としたく、会員の皆様の今後ますますの御協力を願いながら全国大会のお礼の報告といたします。

尚、今回の大会には隣県三重県より10名を超す参加がありました。次回の第62回大会は三重県が会場となります。次回の大会には友情をもって多数の御参加をお願いします。

第61回　全国博物館大会

期　日：平成25年11月7日（木）・8日（金）
会　場：じゅうろくプラザ（岐阜市文化産業交流センター）
参加者：385名

第61回全国博物館大会が岐阜県で開催されました。

本大会の開催地岐阜は、昭和26年の博物館法制定に尽力された棚橋源太郎先生の生まれ故郷です。棚橋先生は、博物館事業促進会（現在の日本博物館協会）の創設（昭和３年）や、「博物館研究」の発刊に中心となって関わり、博物館活動について様々な提言をされ、また、実践してこられました。まさに「日本博物館の育ての親」という存在です。今回あらためて棚橋先生が追求した理想の博物館像の今日的意味を探り、今後博物館が社会においてどのような役割を担うことができるのか、担うべきなのか、その可能性について考えさせられる大会となりました。

大会テーマ「博物館の可能性－新たな博物館像をめざして－」に基づき、基調講演、シンポジウム及び分科会を通じて博物館の置かれている現状を認識するとともに、課題を共有し、今後の博物館活動をよりよいものにしていくための方策を考える機会となりました。

以下に、その概略を報告いたします。

第１日目

１．開会式・全体会議・行政報告・全国博物館会議

はじめに銭谷日本博物館協会会長の挨拶があり、続いて、文部科学大臣（代理）、岐阜県知事（代理）、岐阜市長（代理）より祝辞を頂きました。その後、平成25年度顕彰、棚橋賞、博物館活動奨励賞が授与され、文部科学省、文化庁から行政報告、日本博物館協会からの事業説明等がありました。

２．基調講演

「棚橋源太郎の見た夢
　－博物館の未来を見据えて－」

講師：矢島國雄（明治大学教授）

棚橋源太郎先生は、岐阜に生まれ、北方町で育ちました。わが国の博物館界育ての親であり、理科を中心とする学校教育にも大きな貢献をされました。

棚橋源太郎先生が見た夢は４つあります。

第１の夢の実現は、教師のための専門博物館を創設したことでした。第２の夢の実現は、欧米における博物館の教育手法を通俗教育に応用し、自宜にかなったテーマでの特別展の開催を行うなど、博物館教育の面目を一新したことでした。第３の夢は、本格的な国立博物館の創設でした（これは、自身の手で実現することはできませんでした）。第４の夢は、日本の博物館を博物館先進国の水準に育てることでした。

矢島先生の「今日、博物館は5000館を優に超えるが、棚橋先生が考えたような博物館先進国の博物館に肩を並べて誇れる状態か疑問である。棚橋先生の第4の夢は、我々が受け継いで実現すべきである。」とのお話に、今後各々の立場より向き合っていくべきであると感じました。

尚、本大会会場には、棚橋源太郎先生に関する貴重な書籍・文献・画像を展示するコーナーも設けられました。

３．シンポジウム

テーマ：今求められている新たな博物館
司　会：半田昌之（日本博物館協会専務理事）
講　師：徳川義崇（徳川美術館館長）
　　榎本　徹（岐阜県現代陶芸美術館館長）
　　志賀賢治（広島平和記念資料館館長）

少子高齢化、高度情報化など社会環境が大きく変わる中で、学校教育、生涯学習、地域振興など様々な場面において求められている新たな博物館について議論を深め、博物館の可能性について討議を行いました。

４．白鳥拝殿踊り紹介

地元の伝統文化を代表し「白鳥拝殿踊り」が披露されました。白鳥の拝殿踊りは美濃馬場白山信仰圏に成立した盆踊りで、白鳥踊りの源流です。楽器や太鼓を伴わない本来の拝殿踊りを踊っていただきました。

５．情報交換会

約230名の参加がありました。岐阜の九つの蔵元（岐阜九蔵）の地酒や、飛騨牛のしゃぶしゃぶ、郡上八幡のけいちゃん、長良川の鮎甘露煮、本巣の富有柿、高山の赤カブ漬けといった地元の料理を囲みながら、様々な情報交流が行われました。

第２日目

１．分科会

■ **分科会１「学校教育と博物館」**

司会兼講師

可児光生（美濃加茂市民ミュージアム館長）

講　師

春日井恵子（岐阜市歴史博物館指導主事）

島部公利（岐阜市立梅林小学校教諭）

東　啓一（岐阜県先端科学技術センター副館長）

■ **分科会２「観光と博物館」**

司会兼講師

金子徳彦（古今伝授の里フィールドミュージアム所長）

コメンテーター

池田幸二（近畿日本ツーリスト(株)地域誘客事業部課長）

講　師

小栗幸江（美濃歌舞伎博物館館長）

浦谷公平（飛騨高山まちの博物館館長）

■ **分科会３「高齢化する社会と博物館」**

司会兼講師

市橋芳則（北名古屋市歴史民俗資料館館長）

講　師

窪田雅之（松本市立博物館館長）

黒尾和久（国立ハンセン病資料館課長）

↑分科会３

前日のシンポジウムを受けて、３つのテーマに分かれて分科会が行われました。県内からも多くの関係者が講師として発表を行い、それぞれが事例発表の後、参加博物館園の方々と議論を深めていきました。一例として、第３分科会の「高齢化する社会と博物館」では、３名の講師による事例報告が行われました。

↑分科会２

北名古屋市博物館から懐かしい生活用具を用いて、かつて経験したことを楽しみながら語り合い健康増進をはかる「地域回想法」が、松本市立博物館から友の会・市民学芸員・エムの会といった博物館活動への参加状況が、国立ハンセン病資料館から入所者が高齢化していく中で、ハンセン病への差別の解消や人権学習への取り組みの様子が紹介されました。各館の置かれている状況は異なりますが、いずれの博物館も高齢者が地域社会との関わりをより強くしている印象を持ちました。

２．全体会議・閉会式

分科会後の全体会議では決議案が採択され、盛大かつ成功裏に終了しました。

３．施設見学

Ａコース

岐阜県美術館または岐阜市科学館

⬇

奥の細道むすびの地記念館

Ｂコース

岐阜市歴史博物館

⬇

岐阜公園散策

Ｃコース

世界淡水魚園水族館または
内藤記念くすり博物館

⬇

岐阜県博物館

閉会式後、希望者は岐阜市内及び近郊にある文化施設の見学を行いました。３つのコース合わせて140名余の参加があり、今後の博物館の活動に役立てるべく、参加の方々との意見交換や交流を図りました。

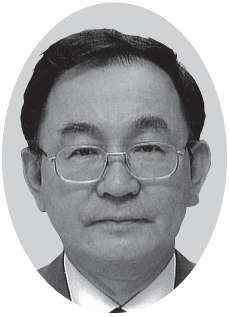
↑Ｃコース（世界淡水魚園水族館）

尚、来年平成26年度の全国博物館大会は三重県で行われる予定です。

（光ミュージアム　吉井隆雄）

今後の大会運営のモデルとしたい新機軸

公益財団法人日本博物館協会
事務局長　下田　重敬



第61回全国博物館大会岐阜大会が、平成25年11月７日・８日の２日間にわたり岐阜市において盛大に開催され、全国各地の博物館から館長や学芸員等約400人が参加し、盛会裡に終了しました。

当協会では、県・県教委・市・市教委、県博物館協会に共催を依頼し、大会実行委員会を設置していただき、小職は顧問として共に準備に当たらせていただきました。

本大会は、当地で誕生された棚橋源太郎先生の偉業に鑑み、先生が追求された理想の博物館像の今日的意味を基本において議論を行うということもあり、委員の方々の創意工夫の成果が随所に発揮されたと思います。

まず、明治大学矢島國雄教授による基調講演「棚橋源太郎の見た夢－博物館の未来を見据えて－」について、多くの若い人たちにも聞いて貰うべく大学院生以下の参加を無料としたことがあります。また、全国からの参加者を魅了し、もてなすため、関係者の理解と協力を得て県内文化施設（一部）の入館料無料措置を大会期間を挟んで水曜～日曜の５日間に拡充したこと、見学施設の紹介を丁寧にかつ紙媒体やＨＰにより広く行ったことなどが挙げられます。加えて、分科会１「学校教育と博物館」には関係指導主事の参加費を無料とし、広く出席を呼びかけたことなどがあります。

これらは従前になかった新機軸であり、今後の大会運営のモデルになると思われます。アンケート結果や感想からも、多くの人がシンポジウムや分科会、施設見学などについて大変良かったと評価しています。また、情報交換会における岐阜の方々のおもてなしに対して、ほぼ全ての参加者が謝意を表していました。

大変お世話になり、誠に有り難うございました。

皆様方のご健勝と岐阜県博物館協会の益々のご発展を心からお祈り申し上げます。

平成25年度
東海地区博物館連絡協議会・日本博物館協会東海支部総会

期　日：平成25年7月18日
場　所：名古屋市科学館
参加者：81名

平成25年度東海地区博物館連絡協議会・日本博物館協会東海支部総会が７月18日、名古屋市科学館にて開催されました。

はじめに、東海地区博物館連絡協議会　石丸典生会長の挨拶があり、続いて来賓の日本博物館協会　半田昌之専務理事、愛知県教育委員会　杉浦章司生涯学習監が祝辞を述べられました。

総会では、平成24年度事業報告及び決算報告、平成25年度事業計画及び予算案他の議題について報告、質疑応答。更に、日本博物館協会の主要事業説明、全国歴史民俗系博物館協議会の説明がありました。

その後、兵庫県立美術館館長　蓑豊氏による講演会が「あさっての博物館」の演題で行われました。講演の概要は次の通りです。

①2年のつもりが30年カナダ・アメリカで美術館に情熱をかけた。
②美術館が街を変える。地域の人、街と共に経済・文化を活性化させてきた。
③センスある企業が街作りをサポートすることで、素晴らしい街が育つ。
④子供のころから、美術館に親しんで感性を磨いてほしい。
⑤安藤建築の兵庫県立美術館にさまざまな事を仕掛けて集客の努力している。

これらのエピソードを交え、「まちづくり全体を考える中で存在感を作り出すことで、施設の集客力はあがっていく」などと話をまとめられました。

（光ミュージアム　吉井隆雄）

第135回 公開講座
「おおがき芭蕉大学」

期　日：平成25年6月23日～平成26年2月16日
会　場：奥の細道むすびの地記念館
参加者：のべ330名

「おおがき芭蕉大学」を全５回の連続講座で開催しました。この講座は、平成24年４月の奥の細道むすびの地記念館開館を機に、全国有数の俳文学の研究者を招いて、様々な切り口から奥の細道や松尾芭蕉について講演していただき、記念館の展示に対する理解をより一層深めてもらうため開講しました。

第１回、立教大学名誉教授の加藤定彦氏は「翁塚と追善供養」と題し、芭蕉の死後各地に建てられた翁塚と追善の様子、芭蕉の愛蔵品と世界観を語られました。

第２回、和光大学教授　深沢眞二氏は「おくのほそ道と謡曲」と題し、謡曲から見た奥の細道への影響、句の解釈、芭蕉の謡曲の利用の様子について検証されました。

第３回、柿衛文庫学芸員の根来尚子氏は「芭蕉の旅、其角の旅」と題し、芭蕉の意図を理解しながら蕉門をプロデュースした其角との興味深い関係を示されました。

第４回、京都府立大学教授　母利司朗氏は「奥の細道の千歳の記念」と題し、『奥の細道』本文中の「千歳の記念」に注目し、読み方や意味について深く検証されました。

第５回、ＮＰＯ法人芭蕉翁おくのほそ道ネットワーク学長　梅津保一氏は「おくのほそ道と大垣」と題し、『奥の細道』や松尾芭蕉について、民俗学的な見地を交えながら様々な視点をされました。

受講者は、講座を通して芭蕉や奥の細道の様々な研究成果に関心を高めていました。

（大垣市教育委員会文化振興課　川瀬邦聡）

第82回 岐阜県博物館協会 会員研修会
来館者との温かなコミュニケーション
―来館者への接客マナーの基礎―

期　日：平成25年10月18日（金）
会　場：岐阜県現代陶芸美術館
参加者：38名

東京オリンピック誘致に際し、「おもてなし」が流行語となりました。来館者が満足して観覧していただく方途として、接客・接遇の重要性は一層高まっています。

今回の研修会では、Ｊプレゼンスアカデミーのインストラクターである川崎 純子氏を講師にお招きし、来館者への基礎的な接客マナーについて実技を交えながらお話いただきました。

来館者との温かな人間関係を築くための基本五原則として

①「挨拶」　②「表情」　③「身だしなみ」
④「言葉遣い」　⑤「態度」

が挙げられました。その一つ一つのポイントについて、実際に立ち姿、お辞儀、物の授受、指し示し等の接客動作を行いながら確認しました。また、案内での応対、展示室の案内等、館内での各種応対について、ロールプレイを行いながら実践的に学びました。

本研修を通じて、改めてお客様との対応について学ぶことの大切さを実感するとともに、個々の来客対応の課題が明確になりました。

（岐阜県博物館）

岐阜県博物館協会　会員館一覧（中濃地区・東濃地区・飛騨地区）

平成25年12月31日現在

■ 中濃地区

県	岐阜県博物館	(0575) 28－3111	HP
私	岐阜現代美術館	(0575) 23－1210	HP
私	世界のナイフ資料館	(0575) 22－8892	HP
市	関市塚原遺跡公園展示館	(0575) 28－5955	HP
私	ナイフ博物館	(0575) 24－2132	HP
私	カミソリ文化伝承館　フェザーミュージアム	(0575) 22－1923	HP
市	美濃和紙の里会館	(0575) 34－8111	HP
市	美濃加茂市民ミュージアム	(0574) 28－1110	HP
市	可児郷土歴史館	(0574) 64－0211	HP
私	名鉄資料館	(0574) 61－0831	HP
私	犬山焼徳利盃館	(0574) 65－6416	HP
私	安養寺宝物殿	(0575) 65－2726	
私	奥美濃おもだか家民芸館	(0575) 65－3332	
市	郡上八幡博覧館	(0575) 65－3215	HP
私	心の森ミュージアム　遊童館	(0575) 65－3274	HP
市	古今伝授の里フィールドミュージアム	(0575) 88－3244	HP
私	齋藤美術館	(0575) 65－3539	HP
市	白山文化博物館	(0575) 85－2663	HP
私	日本土鈴館	(0575) 82－5090	HP
市	ひるがの湿原植物園	(0575) 73－2241	HP
市	美並ふるさと館	(0575) 79－3440	
市	明宝歴史民俗資料館	(0575) 87－2119	
私	若宮修古館	(0575) 85－2023	
市	旧八百津発電所資料館	(0574) 43－3687	HP
市	日本最古の石博物館	(0574) 48－2600	HP
私	松井屋酒造資料館	(0574) 54－3111	HP
市	中山道みたけ館	(0574) 67－7500	HP

■ 東濃地区

私	市之倉さかづき美術館	(0572) 24−5911	HP
県	岐阜県現代陶芸美術館	(0572) 28−3100	HP
私	小泉子ども美術館	(0572) 25−6255	
私	幸兵衛窯本館	(0572) 22−3821	HP
私	こども陶器博物館	(0572) 27−8038	HP
市	多治見市文化財保護センター	(0572) 25−8633	HP
市	多治見市美濃焼ミュージアム	(0572) 23−1191	HP
市	土岐市美濃陶磁歴史館	(0572) 55−1245	HP
私	㈱すりばち館	(0572) 59−8730	HP
県	岐阜県先端科学技術体験センター　サイエンスワールド	(0572) 66−1151	HP
私	瑞浪芸術館	(0572) 66−2170	HP
私	瑞浪鉱物展示館	(0572) 67−2140	HP
市	瑞浪市化石博物館	(0572) 68−7710	HP
市	瑞浪市陶磁資料館	(0572) 67−2506	HP
私	半原版画館	(0572) 69−2474	
私	美濃歌舞伎博物館・相生座	(0572) 69−2126	HP
私	ミュージアム中仙道	(0572) 68−0505	HP
私	古銭史料館	(0573) 65−3818	
私	藤村記念館	(0573) 69−2047	HP
市	中津川市鉱物博物館	(0573) 67−2110	HP
市	中津川市苗木遠山史料館	(0573) 66−8181	HP
私	博石館	(0573) 45−2110	HP
私	前田館	(0573) 65−2070	
市	岩村歴史資料館	(0573) 43−3057	HP
市	中山道広重美術館	(0573) 20−0522	HP
私	日本大正村	(0573) 54−3944	HP

■ 飛騨地区

私	大橋コレクション館	(0577) 79−2211	HP
私	奥飛騨おもちゃ博物館	(0578) 89−3009	HP
私	日下部民藝館	(0577) 32−0072	HP
県	高山陣屋	(0577) 32−0643	HP
私	高山祭屋台会館	(0577) 32−5100	HP
市	野麦峠の館	(0577) 59−2820	HP
私	光ミュージアム	(0577) 34−6511	HP
私	飛騨高山テディベアエコビレッジ	(0577) 37−2525	HP
市	飛騨高山まちの博物館	(0577) 32−1205	HP
私	飛騨高山まつりの森	(0577) 37−1000	HP
私	飛騨高山美術館	(0577) 35−3535	HP
市	飛騨民俗村・飛騨の里	(0577) 34−4711	HP
私	平湯民俗館	(0578) 89−3030	
私	藤井美術民芸館	(0577) 35−3778	
私	森の博物館	(0577) 68−2220	
私	吉島家住宅	(0577) 32−0038	
私	ガラス美術館　駒	(0577) 73−6550	
市	高原郷土館	(0578) 82−0253	
市	飛騨市美術館	(0577) 73−3288	HP
私	飛騨の匠文化館	(0577) 73−3321	
市	飛騨古川まつり会館	(0577) 73−3511	HP
市	飛騨みやがわ考古民俗館	(0577) 62−3251	
市	下呂温泉合掌村	(0576) 25−2239	HP
私	下呂発　温泉博物館	(0576) 25−3400	HP
市	下呂ふるさと歴史記念館	(0576) 25−4174	HP
市	旧遠山家民俗館	(05769) 5−2062	
市	白川郷野外博物館合掌造り民家園	(05769) 6−1231	HP
私	どぶろく祭りの館	(05769) 6−1655	
私	明善寺庫裡郷土館	(05769) 6−1009	
私	和田家	(05769) 6−1058	

■ 新規入会（岐阜地区）

市	長良川うかいミュージアム	(058) 210−1555	HP

独：独立行政法人立　県：県立　市：市町村立　私：私立法人立　HP：館紹介ホームページ有